

平成21年度「金沢ユネスコ・スクール推進事業」実施報告書					
学校番号	44	学校名	金沢市立朝日小学校	校長名	鈴木 寿子 印

1 取組概要

今、環境学習では「Think globally, Act locally（地球規模で考え、足下から行動する）」が求められている。本校では次の世代にすばらしい自然環境を伝えていくためにも、身近な自然を通して、自然の不思議さ、大切さ、自然と人間との関わり方を考えさせ、児童が人間も地球に住む生き物の一員であることを知り、自然や生命に対して、思いやりと優しさをもって行動できるようになってほしいと考えている。

そうした思いをもとに、低学年では生活科で自然が四季を通して変化していることに気づき、普段当たり前のようにある自然が大切なものであると考えられるように年間を通して学習に取り組んだ。また、校区の自然や生活の中で、観察や体験を通して児童の心情を豊かにし、家族や地域の人々への感謝の気持ちを持って成長する事を願って学習を進めた。

3年生では、地域に点在する金時草保管用のむろの観察から学習を始め、金時草の栽培を続けながら、観察や実験、聞き取り調査などの活動を行い、金時草と言う植物の生命力と人間の健康に対する効能、そして、金時草栽培を続ける人たちの思いを学習した。

4年生は朝日に生い茂る竹に着目し、その特徴や、古来より日本人の生活を支えてきた竹の文化について理解し、竹の不思議さやすばらしさを地域に伝えることを目的に学習を行った。竹の観察に始まり、竹林の広がりや人間の生活の害になっていることを学び、竹の利用を進めるために、竹の加工の簡単さと楽しさを伝えたり、実際に竹琴や竹炭を作ったりすることに取り組んだ。これらの活動を通して、人と自然の共存について考えさせた。

5年生では、①朝日の自然の豊かさや不思議さに気づき、守っていかなければならないという思いを育むこと、②人間の生活が動植物に影響を与えていることを理解し、6年生での環境を守るための実践につなげていくことを学習の目的として、自然観察や昆虫と人間生活との関わりについての学習、1人1テーマでの生き物調べ活動、朝日の植物図鑑作り、植物の在来種と外来種についての学習を行った。

6年生では、豊かに見える朝日の環境が人間の生活や開発によって変化していることに気づき、児童が自分達にできることが何かを考え、実行し、それらの経験を発信することを目的に学習を行った。世界で起こっている環境問題について理解し、朝日との関わりのある温暖化問題を取り上げ、原因や結果、解決のための取り組みを学び、実践した。

全校での取り組みとして、同じようにユネスコ・スクールに加盟している金石町小学校を訪れた際には、環境学習で学んだことを発表し、金石町小学校からは地域の歴史や文化の発表を聞くことで、発表の方法について多くのことを学び、また、地域を自分たちで守っていこうという思いを育てることができた。学んだことを発信した学習発表会では、地域の人々への感謝の気持ちを表すお茶会も合わせて行った。1年間の学校生活が多くの人々によって支えられていることを再確認し、感謝の気持ちを言葉や所作を通して表現することを学ぶことができた。

2 成果と課題

(1) 成果

- ①自然観察を通して、朝日の自然の新たな魅力を発見したり、歌作りを通して、自然の良さを再認識したりしたことで自然への愛着が高まった。今後も新たな取り組みを行い、さらに愛着を高められるようにしたい。
- ②金時草や造成林等の学習を通して、人間の生活と自然との関わりや、豊かな自然を維持するためには人間の手が必要なこともあるという理解が深まった。今後は実際に豊かな自然を育むための取り組みなどに参加するなどの行動につなげていきたい。
- ③みどりの小道への積極的な取り組みや木材の活用、緑の募金活動への参加など環境問題へのアクションを起こすことができた。今後もこうした実践を行い、またそれを発信していきたい。
- ④他校との交流で学習したことを発表する方法のバリエーションが増えた。今後も様々な学校と交流を行い、その学校の良さを吸収していきたい。
- ⑤調べ活動や学習のまとめ、発表で情報機器を活用したことで、情報機器活用能力等のメディアリテラシーが向上した。

(2) 課題

- ①朝日に関する学習は地域の自然や産業、環境問題と深まりを見せていった。しかし、朝日のみの学習に止まり、他の地域との比較による学びや他地域との意見交換が不十分だった。今後はユネスコ・スクールに加盟する学校の中でも同様のテーマを扱う学校との交流を行い、比較・意見交換が十分に行えるように配慮していく。
- ②地域の学習発表会や ESD 活動に取り組む金石町小学校との交流、ホームページによる情報の発信はできたものの、それらの活動に対する受信が不十分であり、活動に生かすことができなかつた。メッセージを残してもらうなど、児童の学びの深化につながるような手立てを講じていきたい。
- ③高学年での世界的な視野の広がりが不十分だった。環境問題という問題の大きさを踏まえて、導入部で諸外国の環境問題を取り上げたが、逆に学んだことを世界とつなげて考えることができず、①でも述べたように、地域に対する意識が集中してしまった。今後は導入に世界を取り入れつつも、主としては地域から世界へと視野を広げていく学習方法を取り、世界への意識を十分に持てるような学習の流れを構築したい。
- ④初期は「総合的な学習の時間の延長であり、環境問題を深めた学習」という浅い理解しかなく、ねらいや育みたい力への意識が弱かった。今後は「他人、社会、環境との『関わり』『つながり』を尊重できる個人」の育成や「持続可能な社会づくりに参画する個人」の育成という大きなねらいのもと、学校研究とも絡め「自分で感じ、考える力」「問題の本質を見抜く力・批判する力」「気持ちや考えを表現する力」「多様な価値観を尊重する力」「自ら実践する力」等、ESD 活動を通して身につけたい力を学習の中で意識して取り組むなどの改善を行っていきたい。
- ⑤1年目ということもあり、児童の受け身の姿勢が目立った。気付きや学びを行動に活かすことが後期終盤に入るまでできなかった。カリキュラムの工夫や、児童の主体的に動くようとする意識により働きかけるような教材の準備に力を入れていきたい。